

# ③わがまちが変っていく



## 新秋田川一部暗渠に 空港本体工事本格化

早期ジェット機就航をめざして昨年十月から着工された「空港本体工事」のトップは「新秋田川改修工事」。

新秋田川（昭和二十九年認定された二級河川）は、総延長三・三<sup>キロメートル</sup>（物部から後川合流点まで）流域面積四・五平方<sup>キロメートル</sup>を誇り、南国市東南部平坦地の大動脈の役割を果たしてきました。

改修計画は、王子川合流点から市道久枝、下島線にかかる秋田川橋間の約七百九十<sup>メートル</sup>で、現在、新滑走路の下を通る部分<sup>一</sup>暗渠工事（総延長約五百五十<sup>メートル</sup>）が行われています。暗渠部は、強度などの配慮から六連ボックス（下図）で、現在に倍する量の水が流れるよう計画されていますし、上流の王子川合流点付近には関と沈砂池が設

けられます。

新秋田川の他の部分は、県の事業で改修されることになっていますが、最下流として計画されている「切戸放水路」改修工事が足踏み状態のため、遅れる可能性も残っています。

治水は、これからの南国市発展の大きな「カギ」を握っていると見え、新秋田川の改修は、その先達となります。

空港関連工事は、すでに吾岡山の「法カット」が進行中で、間もなく新滑走路への土の運搬も稲生や香我美町から始まります。

吾岡山の跡地利用も、地元、県、市、日本セメントあたりの話がまとまれば、さらに「カット」がされます。五十六年度からは、発掘による文化財調査や、新秋田川の西を走る県道前浜、土佐山田線の地下道<sup>一</sup>新滑走路の下を通る部分<sup>一</sup>工事も始まり、「空港本体工事」はいよいよ本格化します。



新秋田川暗渠標準断面図（※……は改修前の断面）

